令和４年度２学期終業式　式辞

おはようございます。校長の川崎芳徳です。
２学期の最終日にあたり、一言ごあいさつを述べさせていただきます。
３年生の皆さんにとりましては、「終業式」は、これで最後になりますね。
さて、どんな２学期だったでしょうか？また、どんな一年だったでしょうか？
未だに終息しないコロナ禍の中ではありましたが、感染対策を講じながら、授業はもちろん、学校行事や部活動等々、さまざまに取り組んでこられましたね。
私は、皆さんが、目をキラキラと輝かせて、自分らしさを発揮しながら躍動している姿から、いつも大きなエネルギーをもらっています。皆さんの活躍は、校長として誇らしい限りです。
さて、３年生は、卒業後の進路に向けて、まっただ中ですね。自分だけがうまくいけば良い“個人戦”ではなく、須磨友が丘高等学校あげての“団体戦”です。教室内の空気・雰囲気、勢いを大切に、皆で良い環境を創り上げ、互いにエネルギー、パワー、元気を供給しあいながら、全員が、望む結果を得られるよう進んでいってください。
「霧の中を行けば覚えざるに衣湿る」とは、西暦１２００年代に活躍した禅宗の僧侶で、曹洞宗の開祖である道元禅師のことばです。「霧の中を行けば覚えざるに衣湿る」･･･山の中での修行中なのでしょうか、霧のかかった山道を歩いてお寺に帰ってみたら、着ていた衣が、気付かないうちにじっとりと湿っている･･･「人は、知らず知らずに、おかれた環境からの影響を受けていくものである、ならば、環境を整えることこそ大切である」ということ･･･例えば、皆さんは日本語がペラペラです。どこか、英会話教室ならぬ日本語会話教室に行かれたのでしょうか？･･･そんなはずはありませんね。生まれた時から、日本語の「環境」の中で過ごされたから、知らず知らずにペラペラになったのです。
どうか皆で、全員が望む結果を獲得できるその日まで力を合わせ、最適で快適な緊張感のある空気、環境を維持していってください。“一人はみんなのために、みんなは一人のために”の精神、まさに団体戦で突破してください。
進路先につきましては、「知・考・行」の「知」･･･社会を知る、自らを知る、その視点から、歩むべき道を探ってこられたことと思います。一度きりの人生、二人といない自分自身、それぞれの“持ち前”、能力を存分に活かして突き進んでください。
総合学科で学ぶ皆さんには、釈迦に説法ですが、一点だけ･･･「人生の成功者になりたい！」･･･誰もが願うことであります。人生の成功者って、どんな

イメージでしょうか？･･･勤める会社、職業、役職、最終学歴、はたまた年収でしょうか？･･･皆さんの“価値観”に関わってくる、ひいては日本の将来の姿に関わってくる大切な観点です･･･。

ヒントになることばを残された人がいます。アメリカ合衆国インディアナ州出身の元バスケットボール選手であり指導者でもあった、ジョン・ロバート・ウッデン(1910 年 10 月 14 日 – 2010 年 6 月 4 日)という人。

その卓越した指導力で、カリフォルニア大学ロサンゼルス校･･･ＵＣＬＡと言った方が馴染みがありますね。ここで、ヘッドコーチとしての１２年間に、７連覇を含む１０度の全米制覇に導き、「ウェストウッドの魔術師」「２０世紀最高の指導者」と謳われた人です。

選手としても、大学時代にオールアメリカンに３度選ばれた実力者で、1960 年に選手として、1973 年にヘッドコーチとして“バスケットボール殿堂入り”を果たし、両部門で殿堂入りした初の人物となりました。今では、スポーツ史上最も偉大なコーチの一人に数えられ、その教えはバスケットボール界のみならず、ビジネスや組織におけるリーダーシップなど、多方面において後世の多くの人々に影響を与えています。

このウッデン氏が、成功について、次のように語っています･･･

「成功とは、『なり得る最高の自分になるためにベストを尽くした』と自覚し満足することによって得られる心の平和である」･･･どうでしょうか･･･ここには、人との比較や他人の目、世間の評価などではない、“自分軸”のみがあることに気付かされます。この“ものさし”、是非皆さんにも心の中心に持ち続けていただきたいと思っています。

さてさて、東京オリンピック・パラリンピックが閉幕して、はや１年以上が経過しました。私もテレビで応援しながら多くの感動をいただきました。とりわけ、パラリンピックでは、さまざまなハンディを背負った選手が、キラキラとまぶしく輝く表情で戦う姿に、心を奪われました。片脚が無い、両腕が無い･･･その人たちの姿を目の当たりにした時、皆さんは、まずどんな感情を抱かれますか･･･「この人は私とは違う、気の毒、不幸な人だな」と、直感的に思う人が少なくないのではないでしょうか･･･無意識の偏見「アンコンシャス・バイアス」･･･これも無理のないことかも知れません。しかし、“見えない、聞こえない、話せない”という“三重苦”として皆さんもご存知の、ヘレンケラー氏は、「障害は、不便だけれども、不幸ではない」と言い、さらに、パラリンピックの生みの父、イギリスのルートヴィヒ・グットマン博士という人は、「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」という有名なことばを残されています。

パラリンピックで輝いていた選手達･･･失ったものを数えず、残されたものを最大限に生かしながら、『なり得る最高の自分になるためにベストを尽くした』と自覚し満足によって、心の平和を得ている、に違いないと思うのです。

だからこそ、その確かな内面から、あのキラキラとした輝きが出ていたのだと思うのです。

この度のサッカーワールドカップカタール大会においても、最優秀選手に選ばれたアルゼンチンのメッシ選手、アルゼンチンの国民男性の平均身長でさえ、約１７５㎝ある中、プロサッカー選手であるメッシ選手は１６９㎝です。巧みなパスにドリブル、スピード、加速力、身のこなし、シュートの精度･･･「この体格ではプロなんか無理」と嘆くのではなく、与えられた肉体でなり得る最高の自分になるためにベストを尽くし、真の心の平和を得ておられるのではないでしょうか。

どうか皆さん、皆さんが、それぞれに持たれている、輝きを放っている素晴らしい長所、持ち前、能力を自覚し、その点を、日々の確かな取組でさらに磨きをかけ、他人との比較や序列からではない、自身の魂に尋ね、真の“心の平和”“幸福感”に到達できるよう歩み続けてください。

高校時代は重要です。学びを深めるとともに、さまざまな体験から感性を磨き人間力を向上させ、そして将来を見据え目標を定め、「他人が望む人間ではなく、自分自身がなりたい人間」に向かってエンジン全開してください。

それでは、クリスマス、お正月と、楽しい時間も待っています。健康には気をつけ、命に感謝しながら、令和５年、うさぎ年、ジャンプアップ！飛躍と向上の年へ向かってください！

１月１０日に、元気な皆さんの笑顔と再会できますことを心から楽しみにしまして、令和４年度２学期終業式の「式辞」とします。

どうぞ良いお年を♪

令和４年１２月２３日

兵庫県立須磨友が丘高等学校長　川崎　芳徳